

次代を担う人材育成のためのビジョンの策定と学校経営の推進 ～心を育てる読書教育を学校経営の柱として～

千葉県市川市立富貴島小学校 小籠 宏

I 現状と課題

1 現状認識

本校は、市川市のほぼ中央部閑静な住宅街に位置し、児童数622人、学級数は21学級で特別支援学級の設置はない。市川市の「読書教育」パイオニア校として、昭和50年代から約40年間にわたり、国語科・読書教育の研究を学校教育目標の柱に位置付けてきた。児童の学力は全体的に高く、明るく素直でよく挨拶をするなど社会性も身に付いている。地元3世代家庭も多く、地域コミュニティ意識は高い。新学習指導要領の実施を踏まえ、多様性や変化への対応が求められる時代となり、次代を担う人材育成を踏まえた創造的な学校経営が必要である。

2 課題分析・アプローチの視点

限られた時間の中で読書教育を充実していくためには、教育課程に多様で横断的な視点を持った指導を位置付けることが求められる。

- (1) 確かな学力を育む教育課程の編成
- (2) 読書教育推進のための組織・環境づくり
- (3) 保護者・地域との連携、開かれた学校づくり

II 研究の概要

1 取組の視点

- (1) 教育課程編成の工夫

【教育目標】 清新の意気高く 明るく強く心豊かな子ども

【合言葉】 「は・あ・と」

学校教育目標と合言葉は、児童に定着しており、教育課程の学校行事や活動の振り返りにもこの視点を入れて、意識付けを行っている。

- (2) 教職員の資質向上

「めざす教職員像」として、「素敵な笑顔で心から楽しむ」「児童に感動を児童から感動を」などを具体的な姿として、校内モラル・アップ委員会を活用し、資質向上を目指している。

2 実践の概要

- (1) 研究を主体とした授業改善

平成30年度 研究主題は、「豊かな心を求めて児童の主体的・対話的な学びを育む言語活動の探究」とした。

- ① 教職員の研究・研修の推進
- ② 国語科を中心とした構造化した研究
- ③ 外国語科・外国語活動との横断的な学習

- (2) 学校図書館教育の推進

本校では、学校図書館を「学びの場」として年間計画に基づき、教科指導等で積極的に活用している。読書行事を通し、積極的に本と触れ合う機会を作る。

- ① 学校司書・司書教諭との積極的な連携

- ② 図書館市内ネットワークの効果的な活用
- ③ 図書委員会児童による自主的な活動
- ④ 他教科や領域に関連した初夏・秋の読書週間
- ⑤ 伝統文化に触れる書初め、百人一首大会の実施
- ⑥ 幼・保・小の連携、異学年交流活動の実施

- (3) 地域・保護者ボランティアの支援

約30名の保護者ボランティアが年間を通じて、毎週金曜日に来校し、読書活動を支えている。

- ① 環境整備部による毎月の掲示環境の整備
- ② イベント部による大型紙芝居の発表
- ③ 学習サポート部の図書館整備及び本の修理
- ④ 毎週朝の全学級展開の絵本読み聞かせ

- (4) 社会に開かれた学校づくり

学校の組織マネジメントを支える保護者・地域の方からの意見や考えを聴取し、学校経営に活かしていく。

- ① 平成31年度より学校運営協議会を新規設置
- ② 学校評価アンケートの工夫・改善
- ③ PTA活動・地域の評価、活動の積極的な広報

III 成果と課題

1 成果

- (1) 学校評価アンケートの結果から、「本が好きで興味がある。」「学校が楽しい」と答えた児童の割合が前年度より4ポイント増加した。
- (2) 研究実践を通し、知識への探究心の高揚、学ぶ姿勢が変容した。教職員の授業改善の意識が高まった。
- (3) 学校図書保護者ボランティアの活動が平成30年度千葉県から表彰され、学校参画意識が高まった。

2 課題

- (1) 学校図書館の利活用
学校図書館の活用では、教職員の授業時の働きかけが、まだ十分でないことが見られた。
- (2) 教職員の多忙感の解消
研究指定校として多忙感を抱いていることも否めない。教育課程の見直し方等、業務改善を進めていく。
- (3) 保護者・地域との連携
学校運営への意見聴取の機会を設け、社会に開かれた教育課程の編成を積極的に進めていく。

IV 提言

- 1 将来を見据えた明確なビジョンでは、学校図書館長として、読書活動を基盤とした心豊かな児童の育成を目指していく。
- 2 人材育成を念頭に置いた学校経営の推進では、保護者・地域と学校課題を共有し、学校運営協議会を積極的に活用していく。